

ポイント
3

無償だけでなく 有償も考える

ボランティアでも経費は必要



無理なく続けられる
システムに

「地域活動はボランティアから始めることが多いと思いますが、無償ではなく、できそうなものは初めから「有償」で考えてみましょう。活動する人の負担が大きくならないように、経費だけは出るような仕組みを考えます。無理なく続けていくために、これはとても重要なことです」

あるボランティアチームは



月に3万、5万、10万の
報酬を目指す

「読み聞かせ」をしていましたが、無償で行っていたため、評判がよかったにもかかわらず、1年でやめざるを得なくなりました。絵本の購入費に場所代などがかさんで負担が大きくなってしまったからです。参加していたお母さんからは「一回に300円や500円なら出せたのに」と残念がられたそうです。地域活動は有意義であるほど、続けていく責任を伴います。始めるときは無理なく続けられるようなシステムにすることが欠かせないので。

「経費をもらってスムーズに運営できるようなれば、もう立派なコミュニティビジネスです。さらに工夫して、月に3万円、5万円、あるいは10万円という収入になれば、やりがいはより大きくなるでしょう」
企業は利益を追求しなくてはなりません。定年後の世代なら年金があるため、プラス3万円、5万円、10万円の収入でも



身の丈に合った
小さなことから始める

大きな助けになるのではないでしょう。企業では手が出せない「地域の細かいニーズ」に対応したビジネスが、定年後のシニア世代ならできる可能性があるのです。

「こんな例があります。埼玉

県の深谷市では映画館が閉館に追い込まれ、一つもなくなっていました。そこで映画好きのシニアが商店街の店舗の一部を借りて鑑賞会を開催。人が集まるようになり、今では「深谷シネマ」として監督が舞台あいさつに訪れるまでになりました」
また、定年退職した車好きの人が資格を取り、介護タクシーを始めて高齢者や障害者の通院をサポート



ト。成功している例もあります。定年退職してからファイナンシャルプランナーの資格を取り、シャッター通りにあった実家で、商店街の人たちのお金の相談にのっている人もいます。「注意したいのは身の丈に合った小さな活動から始めること。やっていくうちに仲間ができて、広がった」というのが理想です」